

清水中心市街地活性化地区

1. 概要

本地区は、静岡市清水区の中心部に位置し、特定重要港湾清水港とともに国際海洋文化拠点として発展してきたが、近年人口の減少、少子高齢化の進行、大型店舗の郊外立地化などに伴い中心市街地の商業が衰退してきた。

このため、ノーマライゼーションの理念を取り入れて「歩いて暮らせる都心づくり」を図ることを目標にし、清水駅西土地区画整理事業により都心回遊の拠点となる駅前を整備するとともに、中心市街地を連携する施設整備を行い、安全快適な歩行者空間を確保して多世代都心地区の形成を行うものである。

平成20年度は、道路事業(市道本郷町辻二丁目線)、地域生活基盤施設(清水駅西駐輪場)、土地区画整理事業(清水駅西地区)、地域創造支援事業(アーケード整備)等を行う。

2. 目標

○大目標：ノーマライゼーションの理念を取り入れて「歩いて暮らせる都心づくり」を図る

- ・目標1：都心居住を推進する
- ・目標2：歩行者回遊型の都心づくり

3. 計画内容

所在地	： 静岡県静岡市 <small>しずおかし</small>
施行者	： 静岡市
面積	： 187ha
全体事業費	： 約49億円（交付限度額：約19億円）
計画期間	： 平成18年度～平成22年度
交付期間	： 平成18年度～平成22年度
H19実績	： 8.9億円（うち国費3.9億円）
H20当初	： 14.2億円（うち国費8.1億円）
H21以降残事業費	： 約20億円
H19末進捗率	： 約36%

4. 主な事業計画

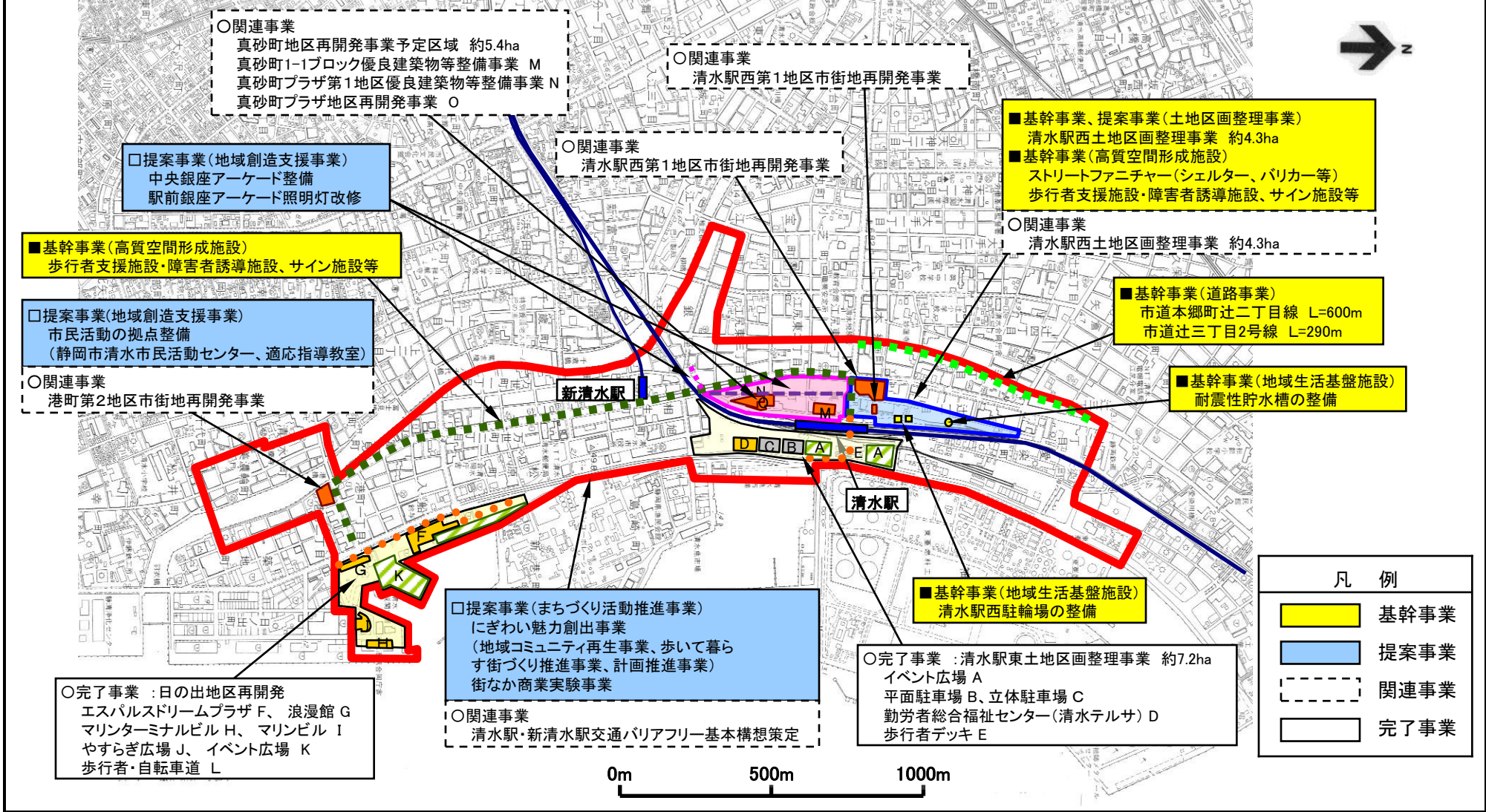
- ・基幹事業：清水駅西土地区画整理事業、耐震性貯水槽整備、緑化施設、シェルター・バリカー、歩行者支援施設、サイン施設 等
- ・提案事業：アーケード整備、市民活動センター、適応指導教室、街なか商業実験事業、にぎわい魅力創出事業 等

5. 目標を定量化する指標

- ・人口指数：100（H17年度）→ 103（H22年度）
- ・歩行者通行量指数：100（H17年度）→ 103（H22年度）
- ・来街者満足度：22%（H17年度）→ 30%（H22年度）

清水中心市街地活性化地区(静岡県静岡市)整備方針概要図

目標	ノーマライゼーションの理念を取り入れて「歩いて暮らせる都心づくり」を図る。 ・都心居住を推進する。 ・歩行者回遊型の都心づくりを進める。	代表的な指標	人口 (指数)	100 (H17年度)	→	103 (H22年度)
			歩行者通行量 (指数)	100 (H17年度)	→	103 (H22年度)
			来街者満足度 (%)	22 (H17年度)	→	30 (H22年度)



まちづくり交付金 モニタリングシート
清水中心市街地活性化地区＜平成20年度＞

平成21年 3月

静岡県静岡市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	静岡市		地区名	清水中心市街地活性化地区		面積	187ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施予定時期	平成22年度		モニタリング実施時期	平成20年度		交付対象事業費	4,852.1百万円		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業			事業名			事業進捗の状況(順調か、遅れているか)					
	基幹事業			地域生活基盤施設:清水駅西・耐震性貯水槽整備、高質空間形成施設:清水駅西・緑化施設・シェルター・バリアカー等、さつき通り等・歩行支援施設、サイン施設等、清水駅西土地区画整理事業			順調					
	提案事業			地域創造支援事業:中央銀座アーケード整備、静岡市清水市民活動センター整備、適応指導教室整備、まちづくり活動推進事業、街なか商業実験事業、にぎわい魅力創出事業			順調					
	当初計画から削除した事業			事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	基幹事業			高質空間形成施設:さつき通り等・歩行支援施設、サイン施設等			地域生活基盤施設に編入		なし			
	提案事業			-			-		-			
新たに追加した事業			基幹事業			新たな課題「交流と賑わいのまちづくり:多世代が交流できる拠点(公園・交流施設)」が出てきたため		・小目標に「交流による活気あるまちづくり」追加 ・指標「都市基盤に対する住民の満足度」「交流頻度」を追加				
提案事業			地域創造支援事業:駅前銀座アーケード整備、旧袖師公民館解体、市民サービスコーナー整備			地区住民の定住促進を円滑に進めるため		数値目標である定住人口の増に貢献する。				
交付期間の変更			当初	平成18年度～22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-				
変更			-		-		-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針
	指標1	人口	指数(H17を100)	100	H17	103	H22	103	H20	あり なし	● 減少から増加に転じて、H20に目標値は達成され、今後も増加する見込みである。ただし、まちづくり交付金以外の関連事業による影響要因が多いため、整備効果を適正に評価することが困難である。	実施事業の整備効果を解りやすく把握するための生活道路の整備などによる満足度等に指標を変更する。
	指標2	歩行者通行量	人	2,942	H18	2,383 (当初3,030)	H22	2,383	H20	あり なし	● 当地区の過去のトレンド及び清水地域全体の歩行者通行量が減少傾向にあり、また静岡駅北整備等の都心地区拠点整備の影響も受けている。	今後実施が予定される事業効果等を総合的に分析して、まちづくり交付金の事業効果により減少傾向を緩やかにするような指標に変更する。併せてソフト施策の連携を検討する。
	指標3	来街者満足度	%	22	H17	30	H22	23	H20	あり なし	● 従前値と比較してほぼ現状維持であるが、今後実施されるサイン施設、アーケード整備の事業効果が期待できる。	モニタリングを各年度に継続的に実施して、今後実施される事業の整備効果を測定する。また、最終年度に他の質問項目についてもアンケート調査を実施して、前回及び今回と比較して満足度が上昇した項目を検証する。
	指標4	都市基盤に対する住民の満足度(①生活道路等の整備状況に関するアンケート調査 ②公園・緑地等の満足度に関するアンケート調査)	%	①47.4 ②10.2	H20	①50.1 ②25.7	H22	-	-	あり なし	● 指標1を補完する指標として設定する。	-
	指標5	交流頻度	人	21,947	H19	34,660	H22	-	-	あり なし	● 当初計画において不足していた目標である「交流による活気あるまちづくり」を実現するために、多世代が交流できる拠点づくりに向けた課題解決のために近隣住民及び来街者の交流促進の指標として設定する。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内において横断的な事業検討体制が構築された。 ・学生が地区内の商店街等においてアンケート調査を実施した際に(H18、20)、商店街経営者は場所や機材の提供等を行い、清水まちづくりカレッジを契機として、大学生等と連携を図ってまちづくりを盛り上げていこうとするようになった。 											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	・H20 指標の達成状況を計測して、市庁内組織による横断的な連絡調整会議を実施			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			● ・モニタリング調査については今後も継続して実施する。 ・今後の計画変更の際にも、構築された横断的組織において検討を行っていく。				
	住民参加プロセス	・H18 まちづくりカレッジの実施[市民、学生、行政職員、専門家等が一定期間集い、地元商店街等におけるフィールドワーク、講義及びワークショップを通じて機運の醸成や課題解決の提案を実施] ・H20 (仮)辻地区公園(仮)辻1丁目公園の説明会、袖師交流センターの説明会の実施[総合計画及び事業内容及び進捗状況等の情報提供を行うと共に、近隣住民へのアンケート調査により、満足度の確認と個別意見を収集して事業に反映。]			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない			● ・大学と地域の連携した取り組みを進めて、協働してイベントなどのまちづくり活動を実施しながら、継続可能な集客力のあるまちづくり活動のプログラムを開発していく。 ・H21において、公園、交流センター整備においては、設計ワークショップを行い、住民の意見を反映させた事業の実施を目指す。 ・今後の事業においても同様に住民との計画づくりにより広く情報提供及び意見収集を行いながら事業を進める。				
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない			● ・商店街振興組合、女将さん会(婦人会OB)等の地域のまちづくり団体と連携を図り、まちづくり組織の構築を目指す。				
6)モニタリングの所見	総合所見	順調	●	当初想定していない新たな課題「交流と賑わいのまちづくり:多世代が交流できる拠点(公園・交流施設)」にも対応して事業追加等を行い、事業は順調に進んでいる。			今後の事業の改善点	・まちづくり交付金に係る庁内連絡体制の強化 ・清水駅西土地区画整理事業の精査・見直し				
要改善	-											